



9月食育だより

江戸川区立小岩第二中学校

9月になっても、まだまだ蒸し暑い日が続きます。夏の疲れが出ないように、食事と睡眠をしっかりとって体調を整え、こまめな水分補給を心がけるようにしましょう。

お月見を楽しんでみませんか？

秋の行事といえば「お月見」です。旧暦8月15日の十五夜は「中秋の名月」と呼ばれ、夜空に浮かぶ月を眺めながら、収穫に感謝してお祝いする風習があります。中秋の名月は、別名「芋名月」とも呼ばれ、里芋をお供えしたり、里芋料理を食べたりする習慣もあります。また、お月見に欠かせないのがお米から作る月見団子です。地域によって異なり、満月に見立てた丸い形や、里芋の形のものなど様々です。



2024年の十五夜は9月17日です。



「ローリングストック」で無理のない備蓄を！

夏から秋にかけては、台風が多く発生する時期です。停電や断水を想定して、水や食料品を準備しておきましょう。日常的に、食料品を少し多めに買い置きし、使ったら買い足す「ローリングストック」を実践することで、無理なく備えることができます。

また食料品以外でも、懐中電灯、携帯ラジオ、マッチやろうそく、ばんそうこうや消毒液など救急用品、携帯用トイレ、歯ブラシなどの洗面用品、予備電池や携帯充電器、カセットコンロなど普段の生活の中で欠かせないものを日ごろからリストアップしておいて、万が一の時に備えておくことはとても大切です。

去年は、さつま芋ごはんと南瓜の白玉汁を出しました。



備える

水

- 1人1日3リットル×3日分以上必要。



食料品



- 食べ慣れているもの。
- 保存性の高いもの。
- 調理不要で食べられるもの。



その他



- ポリ袋、ラップ、アルミホイル、ウェットティッシュ、使い捨て容器など。
- カセットコンロ・ボンベ。



買う・買い足す

- 家族の人数や好み、栄養バランスを考える。
- 使った分を買い足す。



食べる・使う



- 賞味期限が切れる前に消費する。
- 古いものから使う。





Is the Japanese – English “take out” understandable for foreigners? (“テイクアウト”は通じる和製英語なのか?)



新型コロナウイルスが落ち着いたかと思えば、7月には第11波となる流行をむかえ、まだまだ人混みの中ではマスクの着用が推奨されるなど体調管理には注意が欠かせません。そんな中で、以前のコロナ禍では外食の際には店内の食事（イートイン）ではなく、持ち帰り（テイクアウト）を利用する人が増えました。流行の状況や混雑に応じて、上手に使い分けたいですね。

さて、ここで問題ですが「イートイン」と「テイクアウト」は英語圏の国でも同様の表現で使われているでしょうか？例えば英語圏のファストフード店での次のような会話をみてみましょう。

●ファストフード店での会話から・・・



【英文】

Japanese customer : I would like one cheeseburger and one medium french fries.

Shop attendant : For here or to go?

Japanese customer : I would like to take out.

Shop attendant : You mean you want to eat them a location other than here, right?

Japanese customer : Yes, I want to eat them to go home.

Shop attendant : Sure. I will prepare one cheeseburger and one medium french fries for you to go.



【日本語訳】

日本人客 : チーズバーガーを1つと、フライドポテトのMを1つお願いします。

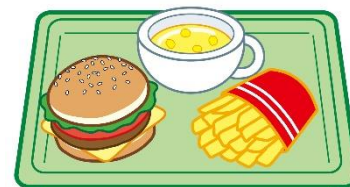
店員 : 店内で食べますか？それとも、持ち帰りにしますか？

日本人客 : テイクアウトでお願いします。

店員 : こちらでは食べないということですね？

日本人客 : そうです。家で食べたいので。

店員 : 承知しました。チーズバーガー1点、フライドポテトのMを1点、お持ち帰りでご用意します。



本来、英語で「eat in」は「家で食事をする」であり、「eat out」は「外食する」という意味で使われるのが一般的です。「take out」は「取り出す」とか「持ち出す」という意味の動詞で、海外では上記のような場面では使わないことが多い表現ですが、会話の文脈から意図が伝わることもあります。ちなみに、「take-out food (持ち帰りの食事)」というように、形容詞のような使われ方をすることはあります。

ここでは、店員が「For here or to go?」と尋ねていますので、店内で食べるなら「For here, please」、持ち帰りなら「To go, please」と答えればよいでしょう。この表現は、アメリカやカナダで使われるもので、イギリスやオーストラリアでは、店内の食事を「eat in」、持ち帰りは「take away」といいます。もし通じない場合は、自分がどうしたいのか（この場合は、どこで食べたいのか）を伝えるのがよいでしょう。



アメリカ
「for here」
(店内での食事)



カナダ
「to go」
(持ち帰りの食事)



イギリス
「eat in」
(店内での食事)



オーストラリア
「take away」
(持ち帰りの食事)